

清武システムズ



～シーズン2「清シス・アピール」

エピソード 2：インタビューからの気づき

「僕」「キャラ」「装置」

しすてむ♥きよたけ

近況



短気で書いた「木のおうち」ここに置いてもらえる事になり、良き意味で現代社会のマネー資本がどのように回っているのか考えさせられている事に気づいた。何か不明な役割や成果が明確でないとなにに対しての賃金なのかわからないため、「装置」を置くときのお金の提示が難しい。

基本、清武システムズの装置レンタルは、相手と相談して決める。一番のポイントは、その場の仕事も行う事。それを基準に話を進めている。あとは、別の人である契約なので、ある程度感覚で動いて良いか？の確認。それを得て、多くもらう事もあれば、そんなにお金を我が社の装置に使うなら、減額して回数を増やし蓄積ができるようにしてはどうですか？と提案する事もある。この段階に意味があると思うが特に、レンタルではないので、最初の利用であるとしても料金不要。

今回は、東京と金沢を行き来しているので、交通費のことも工面して出勤日に換算してもらえた。あちこち動きながら仕事をするスタイルで、収益を得ることの難しさを感じる。なんとか支払いを、とを考えてくれる人たちも世の中にはいるものだと思います。

4月の労働は、レジに立っている時間が多かった。そこから、カフェやパン屋のマニュアル作成を行った。しかも余白たっぷり。あとは現場の人が使いやすく改良して行ったら良いと思っているから。また、やなんとなく気になり、MTGしてみたいから集まってもらおうなどもしていた。働きやすく、その人たちの力は、どのようにして場に活かせるのだろうかと考えて、ついつい動いてしまっていたのだった。

これらは、最近言われている、チームビルディングやコンサルに該当する。だが、清武システムズは、それを売っているわけではない。だけど、場に居てみたからこそ、いかにして場やそこに居る人が活かされるのかという視点は、清武システムズそのもののような気がした。

5月からは、地域の人たちを巻き込んで欲しいという、本来の契約するときに出た話が改めて出た。社長が、事業をスタートする前から欲していた機能だ。僕は、意図的にそれをすることがどうも苦手だから、自由にさせて欲しい、好きに動かさせて欲しいと伝えている。訪問看護チームがいる前を通るときは回ってみたり、スライディングしてみたり…児童デイの部屋にカフェの服のままお邪魔しま〜すと入って行ってみたりしている。なんだろう・・・わからないけど、何か僕の中で興味があるのだと思う。

わりにくいからこそ

前回、東京のアジト（シェアハウス）の同居人二人に僕について話してもらった。僕は清武システムズという看板を下げて「何か変化をしたいが、手立てがない。そんなときにお声かけください」と伝えている。また、自分を「変化のための装置です」とし、レンタル可能の品のようにしている。ただ、「それって何?」「わかりにくい。」「怪しい。」と僕と会話をしたことがない人は思う。僕自身も縁あるところに漂流しているので、具体的に「何ができる品」と決め切っていない。

そこで、前回「僕＝装置」がアジトの二人にはどのように映っているのか、インタビューをしたのだった。そこから改めて、僕って何と言えるのだろうか?と問いを持った。何かに属しているはずなのだけど、属していない。

例えば、〇〇の清武です。と所属をいうことがあるとしよう。しかし、「あれ!? そうだっけ!? 清武システムズだよな・・・」と思い一人でギクシャクするのだ。介在させてもらっている場のポジションが今の主な関与であり、相手側にもそう映っているのだから、それでよく、清武システムズは副次的で構わないのだ。だが、と接したことがある人はわかるだろうが、どうも「清武」の色を隠しきれない性分であり、厄介なのだ（全エピソード、清武システムズのHPをご覧ください）。

あまり語っていなかった僕が思っていたこと

前回のエピソードでは、僕の発言が少なかった。一体自分が何をしているのか、何者なのか分からず。だからか、自分について語ることの難しさに直面していると思った。他者であるアジトの二人は、そういう分かりにくさを面白がってくれている人で

もあったから、よく話してくれたと思う。相手が知っている、分かる範囲で僕を受け止めている例でもあろう。また、その面白さを欲している分野（彼女たちもそれぞれいくつかのフィールドに身を置いて働いているので）があるのかもしれないと思った。「面白さ」に関しては、アジトでの僕との「コミュニケーション」に焦点が当てられていたと思うので、コミュニケーションという言葉のキャッチボールが繰り返しなされ「会話の微調整」が行われていくのかもしれない。そこから何かちょっとした変化が始まっている可能性はあるようだ。

今回、自分という個から綴ることができるとも思っている。しかし、前回の振り返りを通し、それは難しすぎるし、人間は個人だけで生きちゃおらんから、面白くないところへたどり着きそう？と思った。ということで、面白くなさそうなことは、ささっと放棄する。

言い換えると、他者がいて自分の存在に気づくこと、また、先に述べたような社会のなんらかの所属があるから、その枠により自分が何であるのか言葉にできると思うと、個だけで自分を考えることは、生きづらさに直面するように思った。僕の場合は、社会があり、その中で他者と会い、それらと僕で発揮されるので、一人だけの力でどうこういう話しは、普遍的に通用する話題でもないと思っている。

その「出会い」は、僕だけに言える話ではない。自分が何者かわからないことはしんどく、それを掘り下げていくようなこと

は、進む道さえ見失う。こういう、若者は多くないだろうか？自分が何であるかを自分で考えると、今の自分さえ見失う。そして、人はあえて語らないこともあるのに、語らないこともある自分さえ忘れてしまう。

「出会い」は一人で進んで成り立っていないから、状況に応じて、相手に応じて語っているのにその境さえわからなくなってしまふ。それが、個だけで考えるとドン詰まりになる理由なのではないだろうか。



そこで、今回は、上述に気づいたことを具体的にしたいと思い、せっかくのインタビューを用い、綴っていきたいと思う。

うまく書ける気もしなければ、何か論じ提言したいわけでもない。なので、なんか言っている人が世の中にいるんだな〜くらいで読んでいただけたら幸いだ。

今回のラインアップは、「1. 同じ作法だけでは出会いにくい?」、「2. キャラ蚕(解雇)」、「3. 器用と不器用の揺らぎ」、「4. 装置が反応するときの一つ〜マッチョな場〜」、「5. 出会いの特徴」、「6. 再構築? NEW構築?」、「7. 僕=装置=豊かな日

常生活との『出会い』」、「8. 社会的に帰属していない?」、「9. 我が社のユーモアな装置から」

1. 同じ作法だけでは出会いにくい?

僕には「キャラ」がある。という話があった。それが、会話のきっかけになっていたそうだ。何か気になる要素が、滲み出ているタイプのようだ。確かに、知らない人と会話が始まるとき、服やメガネ、髪型、タバコなど嗜好となるものから会話は始まり、他者の物語が自分の物語を思い出させられることはある。そして、その時間自体が「出会い」であり、自分の物語となっていることがある。

前エピソードで、自分がないのかというように人と比較して話されていた「キャラ」。確かに、僕も思っていたことがあった。街中に出ても同じような服装だったり、話し方をしている人が多いと思う。同じであることを意識していることを感じるのだ。その輪から外れないように意識されているようにも感じる。

人はそもそも異なる生き物じゃないの? と思っている僕が不思議に思っている、一様になっていく現象が日本社会に増えてきたように思う。例であげるなら、就職活動や婚活。何かグッとくるもの



がないと採用にならないだろうに、相手の希望にそうように変身していつている気がする。そんな要望いつから出されたっけ? と思うような話だ。

2. 「キャラ蚕（解雇）」

だが、何も作法がないことを良いとは思ってはいない。作法がなければ、何に合わせて言葉を交わしていくのか、何がその場では了解されるのか、一定のことを個人がわかっていないと、その場の規範は乱れてしまう。そして、一定の基準がなければ、振り返ることや次へのステップは創りにくい。

その例となるのが、僕。基準がないと対外的評価というのが、まばらであったり、相手側基準に委ねられる。失敗としての「キャラ」もある。僕が、「キャラ」が出すぎている可能性がある時は、主張が強いのではないか?と思われることもあるのだ。

時系列で追うと、最初は、「頼っている」と言われるのに、ことがうまく回らなくなって行きそうだった時に発言すると、「さっと去られる」ケースだ。「主張」と捉えられることもあるからだ。それは、今慌ただしい中で、そこを考えている余地はない場合に起きる。それで、本当にいいのか? と思って進めない僕がいるので、厄介な「キャラ」が出没するのだ。

これは「勘のよさ」が悪く働くときである。外の者であり「契約終了」可能としている清武システムズなので、「キャラ蚕（解

雇)」と自分で呼んでいる。まだまだ、これからだなーという具合だ。

「キャラ蚕」を通して見えてくるのは、違う振る舞いをする「キャラ」は安定した秩序を乱すというよう、排除型もある。しかし、それだけでなく、一度受け入れてくれているので、社会は新しい風を受け入れることもできる時代なんだと思う。

3. 器用と不器用の揺らぎ

だけど、僕と違う顔を持つ人もいる。何かを行って行く上で、相手とうまくやろうとしてく人もいる。この人について行けば、これからその業界でやっていけるだろう...と、上手く操れるようにいい顔をしておくといい人たちだ。

本当にそれが豊かな人生なのだろうか？と思う。将来の保証は、誰も分からない。また、誰かが決めることではないから。自分がどうしたいのかを軸にしないと疲れ切ってしまうのだろうか...と考えさせられる。

だけど、僕も上記のような人たちの顔を出せば、もう少し、使い勝手のいい「装置」になれるのかもしれないとも思って、よく改める。よくも悪くも、清武システムズの「装置」は、社会的に何屋さんか分からない（決めていない）から曖昧である。だが、他者が目に留めてしまう何かヒットポイント「キャラ」は持っているようだ。そこから、そのように振舞っていくのが、僕のこれからのテーマだと思う。

4. 装置が反応するときの一つ

〜マッチョな場〜

「自由」をよしとしてもらいながら、場に馴染み始めたら「自由すぎる」に変わるからだ。そうです。と言って、進んでいるのもあるが、個人で食っていくには、「自由すぎる」では、まだまだ、食っていけないとよぎるのも嘘ではない。

しかし、うまくやっていくことが中心になり、発言を躊躇して言われるがまま、こなしている人たちを見るときがある。それは、個人のメリットだけ考えていないだろうか？と思う。その場や活動をよりよくしたいなら、互いにそこに基づいた話しをしていけたらいいと思う。

5. 「出会い」の特徴

僕は、「キャラ」で何かが始まるが「自由すぎる」では食っていけない。換言すれば、社会の経済マーケットに「キャラ」は乗っているが、「自由」は乗っていないということだろうか。←いうまでもない！？

だけど、僕は、この「自由」に過ごすことを売りにしているには違いない。

それはなぜか。なんとなくだが、制度や政策により、ヒューマンサービスが細分化されて行

っている気がするからどこかだけに



いるとか、ちょっと苦手っす！と思っている（のかも

しれない)。もう一つ、先に綴ったかもしれないけど、人が共存できないようなことはしたくないと思って、あちこちぶらぶらしたがつているかもしれない。さらに！何かラベルを貼られて、もしくは、相手に貼って、それを前提にして人と接したくないし、されたくない。

もともとあれこれふらついているので、全てが断片的。その僕がいうのってなんの説得力もないと思うが、それでよしと思うのも「僕＝装置」...と思うが、実際出会ってもないのに何かラベルを貼って出会うことが増えてき、ラベルがあるから、そこでしか生きられないなんてこと、増えてきてはいないだろうか。

例えば、地域の人や施設の活動に入ってもらおうとか、疾患がある人とセラピストの関係だけになっている人をどのように巻き込んで行ったらいいのか、という話があった。あらゆるところに人がアクセスしにくくなっている現れだと思う。人ベースで考えると、役割がなければ、場に入りにくい現状でもあるのかもしれない。なんらか、他者と会っているけど役割がないと、すれ違ってしまっただけになっている可能性もある気がする（そういう過ごし方の良さもあると思うが、それは今回は割愛）。もちろん、何か個人的な人生の分岐点があり、これまでアクセスしていた場や人の所へ、アクセスしにくくなることもある。（だから、専門家の必要性も十分感じている。そこで出会う新しい人物になると思うから）

6. 再構築？NEW構築？

それについては、現場がネットワークをどのように再構築していくのか切磋琢磨している。ただ、僕は、個人的に分岐点により、他者とのアクセスが難しくなった人（こういう人を何かしたい欲求不満の人と前向きに捉えている）と道端で話し込んだりすることが時折ある。

綴ってきたことを踏まえると、僕は、自然になんとなーくネットワークが作られにくい状況に疑問を持っている。コミュニティに新しい風が吹きにくい状況は、現場の人間が動きにくくないだろうか？と思うこともある。そこを気にかけているのは、関係を作って行っても、その先はまた別の分野なんだろうと無意識ながらに思い迷い始めるのは、クライアントや患者、客と言われる人になっていないのだろうか。とちょっとお

節介ながらもあちこちの



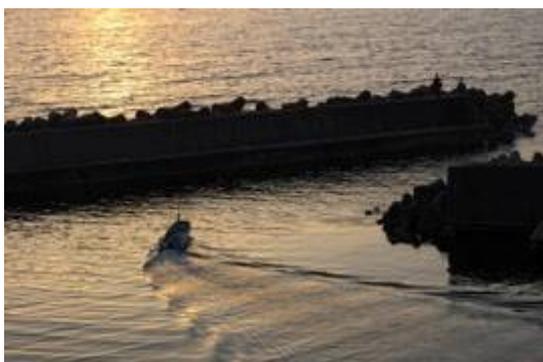
現場や人に興味を散らばせている。

7. 「僕＝装置」＝豊かな「日常生活」 との「出会い」

そこから僕は、自分の「日常生活」で起きることから、「日常生活」がどのように変わり、進んでいるのか考えさせられているようだ。

清武システムズは「日常生活」の中にある。この「日常生活」への働きかけは役割がないとどうやら、「お金」にはなりにくい。「日常生活」は常に変わるもので、人の欲求も様々。だからこそ、僕も「自由」。清武システムズの「自由」は、その場に置いてもらい、自分の仕事はその場で自分で創っていくスタイル。

だけど、そういうことを許可してくれるところはあっても、お金の話になると、一筋縄にはいかないのも現状だ。だから、置いても良い、置いてみても良い役割を一つもらう。「自由」スタイルに効果があるのかわからないのか不明だからである。



でも、変わりたいように変わることに。それ自体は、あまりにも、一側面だけしか見られておらず、効果と対応のようで、それでは事はくりかえされてしまう。だから、装置はそれではない。「あー何かよかったね」が少しでも起きたなら、清武システムズは成功だ。よそ者である僕はそこにアドバイスを言えるような者だとも思っていない。実用可能である装置である「キャラ」であることが、望ましいと思っている。へたっぴだし、風貌変える気もないけどね。



余談

今は、すでにある場に呼んでくれスタイルだが、まだ清武システムズの売りに弱い。したいことがあるから、何か新しいことを自ら作って行く事も始めようとしている。面白いと思ったことは、やりたいし行きたい。僕が、面白いと思うときって、3年くらい先にふわ〜〜と何か人が笑って、僕が去っている様子が目に浮かぶとき。

8. 社会的に帰属していない？

「僕」、「キャラ」、「装置」と清武を表す言葉が散乱した。そのくらい、僕は安定した役割を持っていないという象徴だろう。先に、僕は「断片的」に生きていると言った。これは、以前誰かに言われた言葉なのだが、それは確かだ。清武を表す言葉は、どれも具体的ではない。

しかし、僕はそれを極められないのだろうか、という難しい挑戦をしている。何か明確なこと、白黒はっきりしようとしてきた時代だからこそ、「曖昧であること」に必死なのかもしれない。いや、それは割と最近思っただけで、基本的に一つに熱中で

きない。興味無いと思うことが何一つ無い。あるのかもしれないが、まだ出会っていない。もしくは、上手に交わして生きてきたのかもしれない。

話は戻るが、そんな僕が「曖昧であることに必死」になれた。曖昧にさせ続けることは非常に難しく、それは、何の売りにもならない。でも、いろいろな「キャラ」があるのに一つに絞る必要があるのか？と問うているのだと思う。もう一つ。曖昧であるから、思いがけず他者の頑張っている物語に出会うことがある。自分が意図して、出会おうとしておらず、また、聞き出そうとしてないからだ。

社会的に位置づいていないから起きやすいのであれば、僕はこのスタンスは、自分の人生が面白く肉付けられていくと思っている。しかし、安定した収入や将来の不安が、無いわけではない。だが、もしかすると、今のスタンスに意識してこだわり始めたら、社会が僕を仲間に入れてくれるかもしれないと思っている。面白いと思うことは、続けられるように頑張ってみようと思う。今握りしめておける言葉は「継続は力なり」。清武は清武をやめることはないだろうから。

9. 我が社のユーモアな装置から

前回のインタビューから「嫌なところ」と聞いたらそれも「アイルくんらしい」という話があった。人にちょっかい出したり、ひょうきんに見せたり、真剣になったり、

いろいろ言われることに反応したり、しつこかったり。

それは、相手とその場の状況に左右されながら、し始めます。意識的にしてはいないのですが、面白いことが起きないか、と狙っているはずです。

清シスの売りと言っているくせに、自分では、この必要性があまり理解できていません。だからか、何を中心に収益を生むのか難しいな～と思っています。現代社会のマーケットは、〇〇制作、企画、マネージメント、相談、講師など、役割や成果物に支払いがあります。このマーケットに乗っていくのか、乗らずしてちょっとだけ乗ってみるのか、まだ彷徨っています。

でも、今あること、舞い込んできたことに必死になるのは違いありません。そして、僕が面白いと思って関わった人が、自分で表舞台で華麗に舞うことができたらいいな～と思っています。でも、僕だって！そんな関係が築けたり、仲間ができることは、貴重。どこかで何かしたい、なんとか変化をしたいけどどうしたら良いのか分からない。そんな時代になっているのかもしれない。



綴り人/しすてむ・きよたけ

[清武システムズ](#)という看板を引っさげ、活動中。

(他者協力により HP が肉付けされました♪) めんどくさいことも起きるけど、そこから面白く展開していこうじゃないか！という、通りすがりの旅人です。

「何か変化を求めているが、手立てがわからない。」そんな時にぜひ導入を！

違う息吹ここにあり！

【連絡先】

info@kiyotakesystems.net